

小さな目標から夢を実現する

まもなく長い夏休みに入ります。今年の夏も暑くなりそうです。子供だけで過ごす時間が増え、どうしても大きな事件や事故に巻き込まれるのではないかと不安を募らせてしまいます。保護者の方からは、「いっそのこと夏休みなんてない方が・・・」という声も耳にしますが、子供の側に立てば、やはり自分の時間をたっぷりもてる夏休みは待ち遠しいに違いありません。

だからと言って、目的や目標もなく、何もしないでだらだらしているのでは困ります。子供たちには、自分の命や安全は、他の誰でもない自分で守るという覚悟をもち、人のために自分にできることをやり続けてほしいと思っています。

「将来の夢は何ですか」と子供たちに質問すると、それぞれの夢を語ります。多くの大人は「夢は大切だね」「夢が叶うといいね」「きっとその夢は実現するよ」とそれぞれ考えた答えを用意します。確かに、芸術家や発明家の多くは、自分の夢や仕事について、小さいころから強く思っていたという人が多いようです。これは、「必ず実現してみせる」という強い気持ちや意欲が、夢の実現につながることの表れでしょう。目指す気持ちのない夢が、ある日突然、まさに夢のように実現することは、決してないのです。

さて、今は夢をもちにくい時代とも言われます。しかし、よく自分を見つめていれば、自分らしさや自分がやりたいことは、誰もあるはずです。その中からまず「小さな目標」を一つ決めることが大切です。それを目指していると、新しい興味のある「次の目標」に出合うものです。それからまた、「新しい目標」を定めて努力して見るのです。夢の実現の仕方は多様です。しかし、小さな目標を一つずつ達成する喜び、努力する自分を理解できる喜び、その一つ一つが成功体験として蓄積され、大きな目標実現につながるのです。本当にささやかなことでもかまいません。自分のためはもちろん、家族や地域のためになることをしっかり考えて、目標を見付けてほしいと思います。毎朝新聞を取ってくる、玄関を掃くという小さな、すぐにできることでもかまわないのです。それが毎日のことであれば、「今日もありがとう」「よく続くね」と、おのずとお家の方にほめられる、感謝される場面が生まれてくるでしょう。1日の大半は自分本位の生活であっても、人のために一つのことをやり続けているということ、心に張りが生まれてくるのではないのでしょうか。この夏休みには、子供たちにそんな心の張りをもって生活してほしいと思います。

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、いつもご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。暑さに十分気を付けてお過ごしください。

(校長 村杉 一也)